

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	22223003	研究期間	平成22年度～平成26年度
研究課題名	途上国における貧困削減と制度・市場・政策：比較経済発展論の試み	研究代表者 (所属・職) (平成27年3月現在)	黒崎 卓 (一橋大学・経済研究所・教授)

【平成25年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○ A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究の目的は、開発経済学および途上国経済論に関する新たな「知」の創生であり、新しい比較経済発展論の構築である。より具体的には、歴史的アプローチと計量経済学的アプローチの融合、マクロ的アプローチとミクロ的アプローチの融合を目指している。各アプローチの下での研究については、順調に進められているが、それらを融合する研究については、進捗が遅れているようである。さらに、上述したような野心的な目的を実現するにあたっては、評価の高い国際的学術誌に論文を多数掲載すること、また、それらの優れた論文を <b>synthesize</b> した英文の著書を出版することが必須であるが、それらは実現されていない。今後は、これらの課題が達成されることが期待される。</p>	

【平成27年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、期待どおりの成果があった。
A	アジア・アフリカの途上国と戦前日本に関してオリジナルデータ収集を進め、制度採択の決定要因やその影響、政策介入の効果について実証的に分析し、途上国における貧困削減、経済開発に有益な政策、制度の特徴と市場の条件について定量的に明らかにした。国際的な学術雑誌に多数の研究結果が発表されており、経済発展データベースの構築・提供や政策提言の促進に寄与したことも高く評価できる。今後の英文著書出版などにより、研究成果のより社会的な周知を期待する。